

I. 利用学習事業の基本的な考え方

(1) 文化財普及活動と利用学習

仙台市ではこれまで文化財の保護・活用への理解と必要性について、市民の理解と認識を深めるために「文化財せんだい」等の各種広報誌の発行や埋蔵文化財の発掘調査時における遺跡見学会の実施など、数々の普及啓発活動を行ってきた。その成果もあり、一般に文化財に対する市民の関心は高く、また生涯学習への意欲も強い。

仙台市では平成4年に「仙台市旧石器の森・原始古代村構想」を策定した。昭和55年に保存が決定された縄文時代の遺跡である山田上ノ台遺跡と、旧石器時代の遺跡である富沢遺跡、多賀城以前の役所跡である郡山遺跡などを連携させながら、歴史教育の場としてそれぞれを整備していこうとする構想である。この構想を具現化する施設として、平成8年11月、遺跡の緊急保存を必要とした富沢遺跡に地底の森ミュージアムが開館した。以来、学校教育との連携を1つの大きな柱に掲げ、館の予算で送迎バスを借り上げ、見学や体験を中心とした学習活動を展開する利用学習事業を行ってきた。平成18年7月には分館として山田上ノ台遺跡に仙台市縄文の森広場が開館し、両施設を活用した利用学習事業が実施できることとなった。

また、平成14年度の仙台都市圏「どこでもパスポート」にはじまる県内各圏域でのジュニアパスポート等を利用した見学も活発である。平成18年度からは「どこでもパスポート」の提示により平日も無料で入館できるようになったことで、学校が終わってから来館する児童・生徒の姿も見られる。利用学習事業参加の児童・生徒が家族や友人とともに再来館することも多く、本事業は学校教育との連携を促進するだけでなく、文化財に親しみ、愛護する精神を育成するきっかけとしても効果的である。

(2) 学校教育における位置づけ

学校教育の中での博物館利用については、平成23年度から全面実施された新学習指導要領の中でその必要性が述べられている。小学校学習指導要領・社会科、指導計画の作成と配慮事項では「各学校においては、地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。」「博物館や郷土資料館等の施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにすること。」と記載されている。

(3) 実施までの流れ

事業の参加校は、前年度末に各学校宛に実施要項を送付し、次年度分を募集して決定している。児童・生徒の活動に使用する教室は、地底の森ミュージアムでは最大40人程度が活動できる研修室のみである。そのため、見学と体験とを交互に行うなど学校規模にあわせた対応を行っている。縄文の森広場では最大100人程度が体験活動できることから、展示見学に加え「勾玉づくり」「土器づくり」「土偶づくり」「石器づくり」「編布づくり」などの体験メニューを学習に取り入れている。参加決定後は、来館前に当日の活動内容や体験等について事前に打ち合わせ、指導略案の形で提出していただいた。実施後は、事後指導の機会を利用して児童生徒の感想などをまとめていただいた。実施のまとめについては「利用学習事業報告書」として両館のホームページ上で公開している。

Ⅱ. 平成30年度 利用学習事業 参加校及び体験内容一覧

| No. | 利用日 | | 学 校 名 | 参加 学年 | 参加人数 | | 体験活動 | | | | | | | | 施設利用 | | |
|-----|-------|---|------------|----------|------|-----|------|-----|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|----|------|------|----|
| | | | | | | | 地底の森 | | | 縄文の森 (土ミニ250g/土小500g/土大1kg) | | | | | | | |
| | | | | | | | 石器 | 石器使 | 森探検 | 勾玉 | 石アク | 土ミニ | 土小 | 土大 | | 編布 | 火起 |
| 1 | 4月13日 | 金 | 東宮城野小学校 | 6 | 18 | 2 | 18 | | | | 18 | | | | | 両館 | |
| 2 | 4月19日 | 木 | 太白小学校 | 6 | 36 | 2 | 36 | | | 36 | | | | | | 両館 | |
| 3 | 4月19日 | 木 | 折立小学校 | 6 | 54 | 3 | | 54 | | | 54 | | | | | 両館 | |
| 4 | 4月20日 | 金 | 四郎丸小学校 | 6 | 71 | 3 | 71 | | | 71 | | | | | | 両館 | |
| 5 | 4月24日 | 火 | 古城小学校 | 6 | 55 | 3 | 55 | | | | | 55 | | | | 両館 | |
| 6 | 4月24日 | 火 | 岡田小学校 | 6 | 40 | 3 | | | | 40 | | | | | | 縄文の森 | |
| 7 | 4月25日 | 水 | 沖野小学校 | 6 | 72 | 4 | 72 | | | 72 | | | | | | 両館 | |
| 8 | 4月27日 | 金 | 芦口小学校 | 6 | 45 | 3 | 45 | | | | | 45 | | | | 両館 | |
| 9 | 4月27日 | 金 | 向山小学校 | 6 | 51 | 3 | | 51 | 51 | | | | | | | 両館 | |
| 10 | 5月2日 | 水 | 長町南小学校 | 6 | 130 | 6 | | | | 130 | | | | | | 縄文の森 | |
| 11 | 5月8日 | 火 | 旭丘小学校 | 6 | 65 | 3 | 65 | | | 65 | | | | | | 両館 | |
| 12 | 5月9日 | 水 | 仙台白百合学園小学校 | 6 | 47 | 2 | | | | | | 47 | | | | 縄文の森 | |
| 13 | 5月11日 | 金 | 八木山南小学校 | 6 | 39 | 3 | 39 | | | | | 39 | | | | 両館 | |
| 14 | 5月15日 | 火 | 東仙台小学校 | 6 | 78 | 5 | | 78 | 78 | | | | | | | 両館 | |
| 15 | 5月16日 | 水 | 八本松小学校 | 6 | 57 | 3 | | | | | | | 57 | | | 両館 | |
| 16 | 5月22日 | 火 | 蒲町小学校 | 6 | 103 | 5 | | 103 | | 103 | | | | | | 両館 | |
| 17 | 5月29日 | 火 | 根白石小学校 | 6 | 17 | 2 | 17 | | | | | 17 | | | | 両館 | |
| 18 | 5月31日 | 木 | 中田小学校 | 6 | 93 | 5 | 93 | | | 93 | | | | | | 両館 | |
| 19 | 6月1日 | 金 | 虹の丘小学校 | 6 | 55 | 4 | 55 | | | | | 55 | | | | 両館 | |
| 20 | 6月5日 | 火 | 錦ヶ丘小学校 | 6 | 170 | 6 | 170 | | | 170 | | | | | | 両館 | |
| 21 | 6月7日 | 木 | 川前小学校 | 6 | 64 | 4 | 64 | | | 64 | | | | | | 両館 | |
| 22 | 6月19日 | 火 | 市名坂小学校 | 6 | 84 | 5 | 84 | | | 84 | | | | | | 両館 | |
| 23 | 6月21日 | 木 | 栗生小学校 | 6 | 132 | 6 | | | | 132 | | | | | | 縄文の森 | |
| 24 | 6月22日 | 金 | 連坊小路小学校 | 6 | 82 | 4 | 82 | | | 82 | | | | | | 両館 | |
| 25 | 6月22日 | 金 | 人来田小学校 | 6 | 38 | 2 | 38 | | | 38 | | | | | | 両館 | |
| 26 | 6月29日 | 金 | 福室小学校 | 6 | 84 | 4 | | 84 | | 84 | | | | | | 両館 | |
| 27 | 7月10日 | 火 | 住吉台小学校 | 6 | 51 | 3 | | | | | | 51 | | | | 縄文の森 | |
| 28 | 7月13日 | 金 | 秋保小学校 | 5,6 | 14 | 2 | | | | 6 | | 14 | | | 8 | 縄文の森 | |
| 合 計 | | | | | 1845 | 100 | 1004 | 319 | 108 | 898 | 501 | 191 | 204 | 57 | 0 | 8 | |

Ⅲ. 平成30年度 地底の森ミュージアム・縄文の森広場 利用学習報告書（実績まとめ）

☞参加校（全28校：小学校28校，中学校0校）

1. 利用学習に参加して，施設を活用した学習活動が期待通りできましたか。

| A：できた | B：できたが，期待通りではなかった | C：できなかった |
|-------|-------------------|----------|
| 26 | 2 | 0 |

2. 上記1の答えを選んだ理由を，ご記入ください。（○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見）

- 体験の際に，児童一人一人に丁寧に対応してもらった。
 - 見学・体験を通して，その時代の生活の様子等をしっかり学ぶことができた。
 - 施設見学及び体験学習ともに，十分な時間を確保することができ，充実した活動が行なえた。
 - 授業では，資料集で写真を見るだけだったが，竪穴住居や石器などに触れたり作ったりすることで子供たちの実感を伴わせることができた。
 - 職員の丁寧な説明や体験活動，学習ノートの活用などにより，児童が意欲的に活動・見学を行なう姿が見られた。
 - 学校での学習内容と丁度かみ合っていて，深い理解につながった。学芸員の話もとても分かりやすく，質問にも丁寧に答えてもらった。
 - 縄文時代の生活についてや勾玉の作り方を丁寧に教えてもらい，とても充実した学習を行なうことができた。児童の感想から，縄文時代の特徴や当時の様子について理解を深めたことが伺えた。
 - 土製品づくりの体験の際，発掘された土製品や土器を，スライドを使ってたくさん見せてもらったので，児童が興味を持って活動に取り組むことができた。イノシシやクマの土製品は，一部，資料を見せていたが，見たことのない土製品や土器の写真もあり，児童は目を輝かせていて，期待以上の話だったと感じた。
 - 体験学習も館内展示見学も，多くの職員に助けてもらいながら，集中して楽しむ子供の姿が見られた。
 - 体験活動を通して，当時の人の苦労などを体感することができた。この経験から，初めての歴史学習に対して興味関心が喚起され，縄文・弥生時代だけでなく，それ以降の学習にも意欲的に取り組んでいる児童が多く見られた。
 - 縄文の森では，通常500gの粘土を1kgの粘土にしてもらい，大きな土器を完成させることができた。教え方が丁寧で，時間内に終わることができた。
 - 展示施設の見学では，短時間ではあったが，ワークブックを活用しながら，旧石器や縄文時代の展示物に興味関心を持つ機会になった。
 - 教科書や資料集だけではイメージが難しい石器時代や縄文時代の様子について，見学したり体験したりすることができて，理解が深まった。また，石のアクセサリーづくりを通して，歴史学習への意欲が高まった。
 - 学校では体験しにくい活動，指導しにくい活動を実際に体験し，学ぶことができた。
 - 社会科の授業で学習した内容を実際に体験することで，理解がより深まったと感じた。
- △どちらの施設でも体験活動を入れていたため，せつかくの展示資料をゆっくり見る時間がなかった

からもったいないように感じた。加えて、ワークシートも利用したが、自分で見学しながら興味のあることについてじっくり調べる時間がなく残念だった。

○縄文時代について、教科書で概要は学習したが、竪穴住居や土器など、実際に触れながら活動を行うことで、児童はより実感の伴った知識を得ることができた。地底の森ミュージアムでは、教科書で取り上げられている内容よりも古い歴史を学ぶことができ、児童にとって多くの驚きがあり、とても充実した活動となった。勾玉づくり、石器づくりのどちらも、多くのスタッフに助けをもらい、とても楽しい活動になった。

○子供たちが楽しみながら活動し、当時の暮らしについて知ることができた。説明も、とても分かりやすかった。

○実際にその時代のもので見たり触れたりし、また、石器づくりや勾玉づくりなどの体験活動をすることによって、歴史学習への興味関心が深まった。

○体験活動（勾玉づくり・石器づくり）を通して、縄文時代や石器時代の暮らしを身近に感じることができた。また、施設の見学で、知識・教養を広げることができた。

△体験活動は子供たちにとって、とてもよい経験となったが、展示スペースを有効に活用することができなかった。

○縄文土器を製作し、竪穴住居の中にも入ることができた。

○当時の様子を見聞きすることで、縄文時代・石器時代の学習内容について、さらに理解を深めることができた。体験活動では、学校では体験できない石のアクセサリーづくりができ、さらに関心を高めていた。

3. 担当として本事業に今後も参加したいと思われますか？

| A：思う | B：分からない | C：思わない |
|------|---------|--------|
| 28 | 0 | 0 |

4. 上記3の答えを選んだ理由を、ご記入ください。（○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見）

○学校からの移動費の負担が例年少ないため、今後も参加したと思う。特に、今年度は移動費用の負担がなかったので良かった。

○見学・体験を通して、児童が興味を持ち、知識をより深めることができた。

○交通費の負担が少なく、保護者の負担も軽減され、学習の計画が立てやすい。

○石器づくりや勾玉づくりなど、学校の授業では体験できないことを体験することができ、学校の授業に大いに役立った。

○児童にとって貴重な体験となる。

○来年度以降も同様の内容で行なわれるのであれば、深い学びにおいて、とても効果的であると感じた。交通費等の負担も軽減されており、利用しやすい。

○貴重な保存資料を実際に見たり触ったりする体験を通して、机上だけでは学べないことを、肌で感じて学ぶことができる機会だから。

○どのように施設を利用したいかというこちらの要望を聞き、児童の学習に生かされるようにスタッフが考えてくれたので、今後も参加したいと思った。また、一度施設を利用したことで、児童がま

た行きたいと体験学習に前向きになっている様子が見られたので、今後の博物館等を使った自主的な学習にもつながるのではないかと感じた。

- 児童が嬉々として活動に取り組むことができた。利用学習を通して、児童の学習活動への意欲が高まっていることを肌で感じることができた。
- 身近な地域にある遺跡に対して興味を持つきっかけとなり、今後の歴史学習への意欲にもつながっていると感じた。バス代を補助してもらえることも大変ありがたい。
- 歴史学習に対する興味関心を喚起するうえで、よい企画・よい学習の場である。また、本校は学校規模の関係で、民間の貸切バスを使用するととなると割高にもなり、バス代の補助は誠にありがたい。
- 学習効果が高いと感じた。学芸員の説明も、丁寧で分かりやすかった。
- 学校ではなかなか資料が足りない時代の学習なので、実際に展示物を見たり、体験したりすることで、より理解が確実になると思う。
- 170名という大人数での見学となったが、スケジュールの調整やバス代の補助をしてもらい、当日もスムーズに見学することができた。今後も本事業があればぜひ利用したい。
- 体験、見学ともに内容が充実している。バスを無料で出してもらえる。
- 実際に見て触れて学ぶ学習は、児童にとって何よりその時代を実感できる。
- 教科書や資料集など、紙面のみでの学習とは違い、実物を見たり、実際に触れたりすることはとても大切な活動だと思う。また、地域の施設を積極的に利用していきたい。
- 子供が、実体験を通して当時の人々の暮らしを学ぶ、よい機会になる。
- 縄文時代の森の跡や、当時使用していた土器など、昔の様子を肌で感じるができる体験は、とても貴重だと思う。今回の校外学習で体験したことをきっかけに、さらに縄文時代の暮らしに興味をもったことと思う。

5. 館職員へのご要望やご意見、今後の利用学習事業に期待することがあればご記入ください。

(○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見)

- 丁寧に対応してもらい、良い学びができた。(多数回答)
- 子供たちの目線に立ち、細かく説明してもらった。特に、体験活動(石器づくり・勾玉づくり)では、とても意欲的に活動していた。子供たちも、大変勉強になったと喜んでいました。
- 今後も同様のプログラムで継続して行ってほしい。
- 指導がポイントを絞っていて分かりやすく、児童は体験活動にスムーズに取り組むことができた。
- △6年社会科の4月～5月に縄文時代を学習するが、忙しい時期でもあるので、5年生の冬12月から当館施設に見学に行きたいと思わせる企画や体験事業があると、6年生の歴史学習につながると思う。
- 平日に下見に行けず、土曜日に下見を行なったが、忙しい中、親切に対応してくれて感謝している。
- △体験学習にかかる時間が学校側としてはなかなか予測できないので、職員にはっきり教えてもらえるとよかった。
- 各施設で、充実した体験ができた。館内での説明も分かりやすく、児童の学習が深まった。
- △説明者から少し離れたところで遺跡等を見学していた児童もいたので、説明の音がしっかり届く所まで児童を移動させたほうがよかった。

6. その他のご意見がございましたらご記入ください。(○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見)

○今回は、石器づくりと土器づくりの両方を体験した。当時の人たちがどのような思いをして道具づくりを行っていたかを体験することができ、苦勞する中で作り出したものに、子供たちはとても満足した様子だった。たくさんのボランティアの方々にも指導していただき、思い思いの石器・土器を作ることができた。また、復元された竪穴住居を子供たちはとても興味深く見学していた。実際のものを見ながら問いかけられることで、また新たな気づきや疑問がわき起こり、大変意欲的に学習することができた。

○6年生になって初めての校外学習だったが、とても充実した子供たちの表情を見ることができ、感謝している。

△実施時期について、授業進度的にもう少し早い時期(4月下旬)にできればという感じがした。

○児童が興味を持てるように、分かりやすく説明をしてもらいありがたかった。ボランティアの方々にも支援していただき、ありがとうございます。

○次回は、学校出発を早くして、時間的にもっとゆとりを持って学習させたい。

○大変親切に丁寧に教えてもらい、子供たちにとって楽しい体験になった。

○児童にとって、大変有意義な学習活動になった。

△地底の森ミュージアムも縄文の森も、展示スペースがとても充実しているので、そこを活用した学習の時間を多く取れるような時間配分を、学校でも考える必要がある。

7. まとめ

平成30年度の利用学習申込は前年度末、市内小学校30校となっていたが、内2校は日程の調整が付き不参加のため、実質的に28校の参加であった。仙台市内小学校のおよそ4分の1の学校が参加したことになるが、昨年度の参加校は34校を数えたので、6校の利用減となった。参加者数を見ても、昨年度の2,292人に対して、今年度は1,844人で、448人の減となっている。

この利用学習事業は、学校教育の中で「地底の森ミュージアム」及び「縄文の森広場」を効果的に活用する授業実践のために、各学校から両館への往復の交通費を補助するものであるが、事業予算の都合上、参加校数によって補助額が変動する。今年度は参加校数が昨年度よりも少なかったため、参加校全てに全額を補助することができた。利用した学校にしてみれば、この全額補助はとてもありがたく、日程の調整が付けば、今後もぜひ参加したい事業であると考えられる。

今年度の利用学習参加校から提出していただいた報告書を見てみると、「利用学習に参加して、施設を利用した学習活動が期待通りにできたか」という問いに対して、26校が「できた」と回答している。その主な理由は、やはり、学校の授業の中で教科書や資料集だけではなかなか習得できないことを、実際に見て触れて、また、説明を聞き体験をすることを通して、より確かな知識として習得し、理解を深めることができたということが挙げられる。また、「本事業に今後も参加したいと思うか」という問いには、参加全28校が「思う」と回答しており、その理由は、「交通費の負担軽減」と「実体験による学習意欲と理解の向上」の二つに大きくまとめることができる。学校教育において学習効果を高めるためには、既習内容を校外学習によって実体験することもその一つであるが、学校からその対象施設等への移動に伴う交通費が大きな負担となるため、教科書や資料集の中での学習で終わることがほとんどである。この問題を改善する意味でも、この利用学習事業は大きな意味を持っていると思う。

今後の検討課題もいくつか示されている。その一つは、利用校からの報告書の中でも指摘されていた

ことだが、「どちらの施設でも体験活動を入れていたため、せっかくの展示資料をゆっくり見る時間がなかったからもったいないように感じた。加えて、ワークシートも利用したが、自分で見学しながら興味のあることについてじっくり調べる時間がなく残念だった。」という意見である。せっかくの利用学習も、学習効果を高めることにつなげられなければ、この事業があまり意味を持たないことになってしまう。このことについては、各校の施設利用目的に合わせて、展示資料学習と体験活動のどちらに時間を優先配分するのか、事前の打合せをしっかりと行う必要があると感じた。

二つ目は、参加校の実施日程の割り振りである。全ての学校を、社会科の単元学習（旧石器・縄文時代）にタイムリー（4月～5月）に日程を組みたいところだが、両施設の受入可能人数の関係から、一日1～2校の実施日程を組まざるを得ないという現状があり、それは難しい。実際、参加校が多かった昨年度は、年明けの1月に実施日程を組んだ学校もあった。今後もできるだけ多くの学校の受入を、単元学習時期に近いところで日程を組み、歴史学習の補助的効果を高めていく予定である。しかし、両施設の利用によって、子供たちが歴史に興味関心を抱き、その後の生活の中で再度、楽しみながら旧石器や縄文時代の暮らしや技術を体験することを通して、過去の歴史を踏まえて今を見つめ直し、将来に向けて新たな活力を生み出す創造の場となっていければ、あまり実施時期にこだわらなくてもよいのかもしれない。今後、そういった提案を学校側へ行っていくことも必要であると考えます。

終わりに、この利用学習事業の継続的な運営に当たって、今後両施設がさらに幅広く周知され、各小中学校がその価値を認識し、より多くの学校が利用学習に参加してくることを目指して、これまでの成果をさらに積極的に広報していく。また、参加する学校の子供たちの学習効果を高めていくために、課題となっている点について、より具体的な改善策を検討していく。

30年4月27日発行

縄文の木林
地底の森

新聞

発行人

昔のことをかんだんにどう

①縄文の森広場があるところ
は、何遺跡の？？？

山田上ノ台遺跡

②平の山田上ノ台遺跡
はどのくらいむかしの
遺跡の？？？

およそ四百年前

③遺跡から見つかって
いる家のあとは？？？

立てあな住居のあと

縄文時代
は……

ムラをフ
くりおも
に野山や
川海など
自然の恵
を食べも
のにし
いた時代
におよそ
一万年ま
の長い間
続いてい
たよう
です。

地底の森ミュージアムが
あった生活のあと

まわりよりすこし高く
木が少ない場所です。小さな
炭のかけらがまともに
落ちていて、ところどころ
まびのあととたといって
いました。
それと、生活のあとを
見にいって、いろいろな
所に、ツカカのフンが
落ちていました。
あと、木の根株が
や幹が一面に
ました。



時代新聞

たて穴住居について

たて穴住居とは縄文時代の住まいのことです。見た目は小さいけれど、実際入ってみると、広くてまどがないため、とても暗かったです。他には住みやすさ、工夫があまりありません。たとえば、寒くなると、ように地面をほって、たかかくする工夫を、他にありません。

石器とは

石器とは縄文時代に使用された、石で削った、角で割った、石の器です。山のダングリ類や、活して食べてました。

時代の食べ物

石器作り!!!

石器は、岩を使って作ります。なかなかなか割れなかつたり、形が線対称にならなかつたりしました。感心、相心

今回の校外学習では、昔の時代の人がどうやって生活しているかがよく分かってきました。



縄文の木林 地産の木林 新聞

旧石器時代

2万年前は旧石器時代といわれていました。旧石器時代は、村はなく、男が狩りをして、たき火をいながら過ごしていました。ほとんどの道具は石で作られていました。石はうろちょうやナイフの形に作られました。たき火のまわりで道具を作ったり、かたものも燃やして使っていました。



縄文時代のくらし

縄文時代のくらしは、家に4から5人で住んで、まともな電気もないので、すごく暗いです。家はわらわ草でつくって、柱は木でしました。

食べ物は、かりが、魚をして食べていました。木の実を採集などもして食べていました。縄文時代は、もようがすごくはででした。女性の人は、首かぶり、耳かきり、かみかきりなど色々な髪飾りなものをみにつけていました。



まとも今の時代は、なんでも人りに使えるので、あたり前とは思えないで感謝しながら生きています。たいと思っていました。

縄文いろいろ 新聞

発行人

縄文時代の家はどんな
ているかな？

暗くてせまい
ゆかがひくい
炉がある・さくがななめ
家がまわりにははいりあ

なあとがあまりす
あとがあらだらう？
どんな

①埋設土器：子どもが
なつたときにくめもの
②貯蔵穴：食料を地中に貯

③著とした穴：穴をほって
物などを落とすとしてわな
けるもの

④土器を焼いた穴

縄文時代と弥生時代に使われた
道具や食べ物は何？

食べ物：動物、木の実、山菜、海
や川の魚、貝など
使われたいた道具：土をほるた
めのぼうし、針、木の皮で
つくった入れ物、縄文土器など
が使われていた。



縄文人の身長、特にお
まゆ毛は太くてこい
目たぶが大きい。
くちびるは厚い。
二重まぶたが多い。
男の人の身長 158cm
女の人の身長 148cm

まとめ
縄文時代のことが
よく分かってますよ
かたです。もといあ
いあな時代も今と
くらべてみてみ
たいです。

旧石器時代 縄文時代 新明

地底の森 ミュージアムで 2万年前を知る

2万年前の地層は現在の地面の5M下にあり、洞や温地が多い。旧石器時代の人々は、石器でやりを作り、狩りをしてくろしていた。富沢にまた旧石器人たちはやり先に使う「アイフ形石器」を残していた。

地底の森 ミュージアムの地下展示室では2万年前の木の根や幹、シカのフン、たき火あと、石器のかけらが当時の人たちが生活したあとが見つかっている。

2万年前の氷河期の植物



地底の森 ミュージアム
富沢博士



道具の種類

土器、石矢、編みもの、魚つりの道具、うるしぬりの道具、石器

でできたやり、木を切る道具、木をまじりつた道具、石包丁、ナイフ形石器などがある。



感想

わたしは社会の勉強で土器を作るのが楽しかったです。校外学習で、実際に土器を作る時、うまくいくか心配だ、たけどなんとか最後までできてよかったです。と思いました。

縄文の森広場

1万年続いた縄文時代

縄文の森広場がある所は山田上ノ台遺跡といひ、およそ4000年前の遺跡。この遺跡がうつつが、家がある。たて穴住居。

縄文の森広場にはムラの様子があり、家が6けん建っていて、動物が、犬、シカ、イノシシの3ひきがいる。縄文人は川や海で魚をとる時に丸木舟を使っていたり、食べ物を長くたくわえるために地面には、た穴に入れたり、魚や肉は干したり、煙製にする工夫をしていた。



- 「クリ」
- 「ヤブノキ」
- 「アマダクワ」
- 「コナラ」
- 「ヤマザクラ」
- 「ヤマボウシ」
- 「コブシ」
- 「クヌギ」
- 「オニグルミ」
- 「ミズキ」
- 「ムラサキシキブ」
- 「カルナシ」

縄文の森広場の



縄文時代ツアー!

一緒に土製品を作りましょう。タイムスリップしてみよう。

初級 → 動物
上級 → 土偶・土器
となっております。

猫型ロボット
...そう!

ドラエモン!

「土製品を作るだけでなく」
「縄文人がどのようなことをしているのか」
「見学できます。一緒にごはんも食べれます」
「イベントも、もりたくさん」
「ぜひ来てください」

土偶に「お宝」は

土
偶



かわいいだろ

これを持っていくと...

割引チケット

大人 → 1500 → 1000円

小人 → 900 → 600円

← 会場まで来たら

チケット

名 お名前

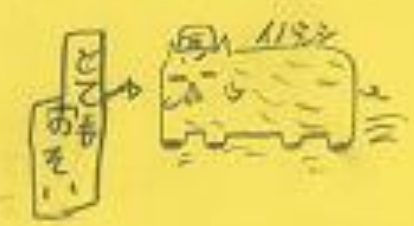
土製品体験 名 がドなし
がドあり

住所

電話番号

5月13日は母の日のためにお申し込みを休みます。

⑧
 (土偶について)



土偶の美

日本列島における土偶の出現は、縄文時代創期後前期(約10300年前)までさかのぼる。しかし、まだこの段階では土偶が定着したわけではなく、一部地域に限定される。縄文中期(約5500年前)になって、ようやく土偶の形が表現されるようになり、立体的になった。

■異形の風貌■

・ハート形土偶・

縄文土偶は、後期前葉になると東日本の各地域に広がるが、異形の風貌をもつ土偶が出現する。その先駆けがハート形土偶であり東北地方南部から北関東地方にかけて広がる。胴部文様は、細い沈線と刺突文などを組み合わせた横線や渦巻文が描かれる。



土器はこゝろのがありました。



縄文時代の大型土偶10

| | | | |
|-----------|-------|-----|--------|
| 1 西ノ原遺跡 | 縄文の女神 | 山形県 | 45.0cm |
| 2 釜淵野遺跡 | 中空土偶 | 北海道 | 41.5cm |
| 3 伊古田遺跡 | 土偶 | 宮城県 | 41.4cm |
| 4 蕨栗志比奈遺跡 | 遮光器土偶 | ミ | 36.1cm |
| 5 高森遺跡 | ミ | 秋田県 | 35.0cm |
| 6 亀ヶ岡遺跡 | ミ | 青森県 | 34.2cm |
| 7 中ノ原遺跡 | 仮面の女神 | 長野県 | 34.0cm |
| 8 宇鉄遺跡 | 遮光器土偶 | 群馬県 | 33.4cm |
| 9 亀ヶ岡遺跡 | 赤彩土偶 | ミ | 33.1cm |
| 10 三ツ山遺跡 | 十字形土偶 | ミ | 32.5cm |

